

平成23年 東北地方太平洋沖地震の被災写真

～実際の被災写真からみる被災者の行動～

平成23年 3月16日

寒地土木研究所 寒地河川チーム 研究員 吉川泰弘

著者は、東北地方太平洋沖地震発生時に、仙台市青葉区川内(東北大学)におり被災し、仙台市青葉区立町の避難所へ移り、幸いにして札幌へ帰宅することが出来ました。本写真集は、地震発生時から被災地を離れるまでの実際の被災写真を時系列で収めた記録です。激甚災害の中、皆さんの助けによって帰宅することが出来ましたが、現在、被災地では多くの支援を待つ被災者がおられます。このような状況の中、被災者がどのような生活を送っているかをご心配されている方もおられると思います。本写真集が、微力ではございますが、少しでも何かのお役に立てて頂ければ幸いです。

なお、カメラを忘れて写真に収めることができなかった3月12日5時30分から8時00分については文章を書きました。また、各々の被災者により直面する状況は異なるため、本写真集は、被災地に住んでいない著者の個人的な一事例として受け取って頂ければと思います。

3月11日(金) 14時46分頃 三陸沖で地震発生

●被災直後:3月11日 14時50分から14時52分

東北大学マルチメディア教育研究棟6階・大ホール



地震発生時は、机の下にもぐり、机の脚をしっかりと持って、ただ沈黙してじっと耐える。
地震発生時の大変な状況の中、机の下に入れないう方を机の下へ誘導するメンバーがいました。
地震の揺れは徐々に大きくなるにつれ、自分はこのまま死ぬのではと感じたが、恐怖感はない。
それと同時に家族の顔がよぎり、真剣に死にたくない強く思った。(揺れは5分程度)
上の写真は、地震の揺れが収まり、直ぐに会議室から出て撮った写真です。
会議室から廊下へ出ると、通気口だと思われるものがぶら下がっていました。



通気口がぶら下がっている(左). 会議室を挟む壁が崩壊(右)



入口から中の会議室の様子を撮影。皆、研究者の命であるデータ等を迅速に鞆に詰める。
きれいに並んでいた椅子とテーブルが大きく移動している。



会議室の窓から見える建物の崩壊を確認し、地震の大きさを感ずる(左).
建物の崩壊は川内合同研究棟5階の屋上施設 (pg.5 の右上の写真)



机の上にあったゴミ袋は、テーブルから落ち、ゴミが床に散乱していた。
しかし、机の上に置いてあるコーヒーが入った紙コップは、不思議と落ちていないとの証言あり。
紙コップの中には、飲んで空の場合もあると思うが、こぼれた痕跡はない。
(地震直後なので真意は不明)



非常階段で避難，階段ひび割れ(右下)

●被災時にいた建物から駐車場へ:3月11日 14時53分から16時16分



建物から離れて人々は立ちすくむ(左), 川内合同研究棟5階の屋上施設が崩壊していた(右).
その他の周りの建物は無事. 右の写真は千葉大学の吉田睦教授の提供です.



駐輪場の自転車はすべて倒れている.



駐車場に避難するが、この時にも、たびたび足元を揺るがす大きな地震が発生。
地震発生時は、皆、声を出すことなく、ただじっと沈黙して地震が終わるのを待っていた(左).
ヘルメットを着帽している人々もいた(右).



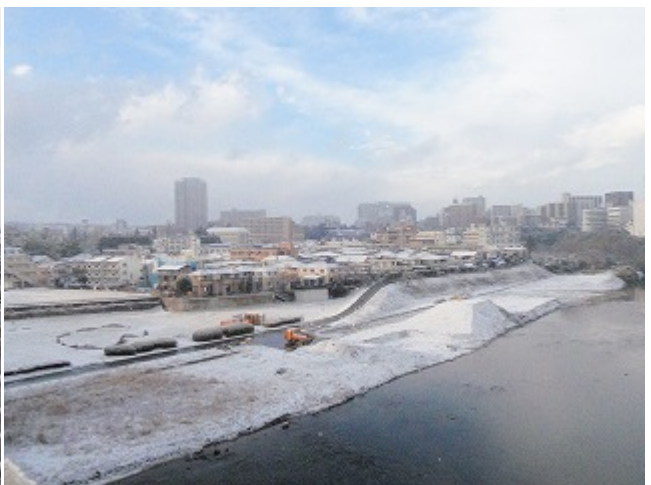
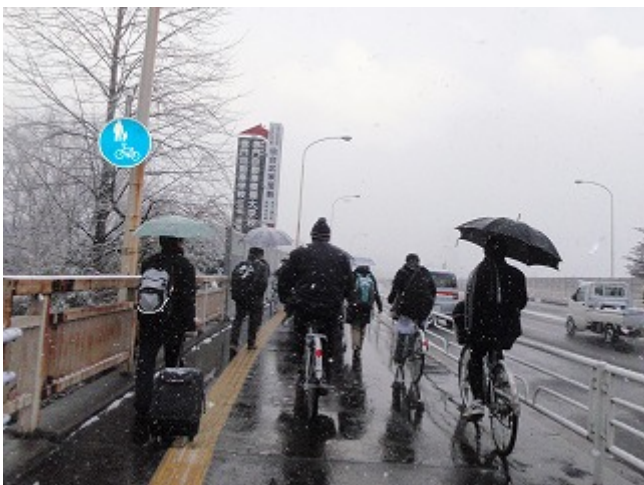
突然の雪が降る。(3月11日16時16分)

雪は16時15頃から16時30分頃の間で降った。津波との関係は不明。

●被災地から避難所へ:3月11日16時18分から16時40分



地元の東北大学の先生の先導のもと避難所へ移動。非常に助かりました。
突然の雪で手がかじかむ。これ以上、雪が降らないことを心の中で祈る。



大勢の人が避難所の方へ(左)、橋の上からみるかぎり、街で倒壊している建物はなかった。(右)

津波の河川遡上が無いことを橋から確認(右)

川は広瀬川、橋は大橋



街は沢山の車で渋滞となっていたが、信号はしっかりと点灯し機能していた。



避難所に到着.

●1日目:避難所の生活:3月11日 16時41分から21時01分



避難所に到着, 体育館に人がごった返しており, 床にはゴザはひかれていた.
体育館の倉庫からの持ち出しとのこと(運動会用かもしれない). 体育マットも使用されていた.
私たちのグループは18名いるため, 場所の確保に苦慮していたが,
ほどなく, 校舎も開放するとの連絡があり, 校舎の2階へ.
校舎は耐震補強してある教室を使用. 補強していない教室は立ち入り禁止であった.
廊下を歩くときは, 廊下も耐震補強をしているのか不安であった.
避難場所は立町小学校で, 私たちの避難した部屋は「ていがくねんとしょつ」でした.



日が暮れて、焚き木が校庭で行われ、沢山の人が暖をとるために集まる。21 時頃の写真。
このときの燃料は、小学校の机や椅子という報告あり。

この夜は、校舎2階で就寝、床には幸いにしてマットが敷いてあり助かる。マットを敷いていない教室は、段ボールを敷いているが相当、寒いと思う。後日談で、一緒に共にしたメンバーが、マットが敷いてある部屋を探してくれたとのこと。

寝るときの人の配置は互い違いに寝る。布団はなく、1枚の大きなブルーシート(おそらく運動会用)を大きく広げて、それを被る。布団のように首までしか被らないと、人との間の隙間から風が入り、体温が奪われる。途中から皆そのことに気づき、顔を覆うように体全体でブルーシートを被り寝る。この教室に約40人おり、一人が寝返りを打つと、大きなガサガサという音が聞こえる。また、大きな地震と小さな地震が繰り返され、その度に身の危険を感じ、寝ることができない。本当に大きな地震が来て、命の危険を感じた時は、皆、起き上がるが、何もできず、ただ、地震が終わるのをじっと待つのみ。ずっと船酔いの感覚がある。

●2日目:避難所周辺の被災状況:3月12日 5時30分から8時00分

この期間は、カメラを忘れたため写真がないため、文章にて記録する。

朝方の5時30分に目が覚め、再び寝ようとしたが、目が覚めて寝られない。このため、避難所の周辺の状況を知るために仙台駅へ向かう。車はまばらに走っていたが人通りはなし。アーケード街を歩いたが、倒壊している建物はなかった。JR、地下鉄、コンビニはすべて閉鎖されていたが、朝になるにつれて、開店するコンビニがではじめる。

●2日目:避難所周辺の被災状況:3月12日 8時00分から12時46分



避難所に帰ると、校庭で炊き出しが始まっており、長蛇の列ができていた。
炊き出しをして頂いているのは、小学校の先生を始め避難所に逃げてきた有志。
わかめご飯が支給された。優先的に子供に配っていた。
久しぶりに温かい食べ物を頂き、幸せを感じた。



車を校庭に駐車していた(左)。炊き出しに使う燃料は小学校の木製の備品(右)。



ラジオを持っていない私たちのグループは新聞が重要な情報源(左).
コンビニは貴重な食料確保の場所(右). ただ一斉に食料を買うので直ぐに底をつく感じがある.



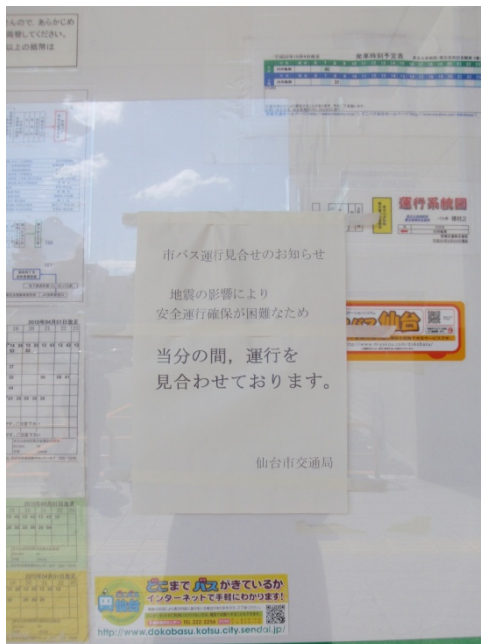
窓ガラスが飛び散らないように、段ボール、ブルーシートで囲っていると思われる(左).
歩道を歩く人への気遣いだと思われる。複数の消防車が出動(右).



一部の古い建物は崩壊しているが、ほとんどの建物は無事です.



信号の発電機が機能していた(左), 窓が割れ段ボールで覆われている(右).



バスセンターの張り紙(左). 無料で炊き出しを行う店(右).
 バスセンターでは、そこで働いている人に、怒鳴りつけている客がいた。
 びっくりしたが、そのお客さんも信じられない事態に、
 パニックに近い状態になっているのかもしれない。
 無料で炊き出しを行う店は、数店舗あった。すべて善意によるもの。



信号がつかない場所では交通整理を行っていた(左). ビルのガラスが割れている(右).



ビルのガラスが割れている(左). 壁が剥がれているが倒壊などには至っていない(右).



アーケード街で、買い物のため行列ができる。
このような状況の中、皆、普段通りに落ち着いていた。
日本の心を感じた。



それぞれの事情により閉店しているコンビニもある(左)
街中の本屋さんの本が床に散乱している(右).



このような状況でも営業し物資を提供している(左).
ガラスが割れて段ボールで覆っていると思われる(右).



無料公衆電話を利用(左). 買い物のため長蛇の列(右).



ミカンなど様々な物資を1つ100円で販売し、一人500円までとして皆に行き渡るように工夫。何分も並ぶ列であったが、誰一人として文句を言ったり、騒いだり、怒鳴ったりせずに並んでいた。



買い物のため長蛇の列。こちらも上記の店と同じ工夫をしていると思われる。



無料公衆電話を利用(左), 無料で炊き出しを行う店(右). 笑顔で食料を提供していた.



駅は閉鎖されている(左). 公園の水道は水が出る(右).



歩道が陥没. しかし, ここ以外では陥没は見当たらなかった.



自衛隊の応援



テレビ局の車で、被災後、初めてテレビをみた。
この時の時刻は 12 時 44 分で、地震発生から 22 時間後でした。

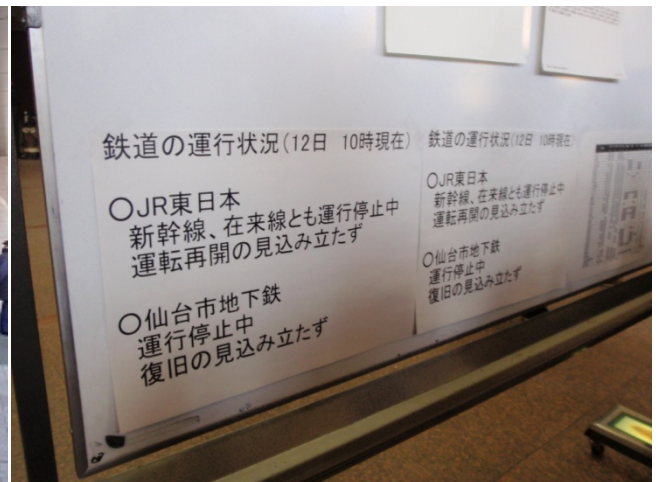
●2日目:避難所周辺の被災状況:3月12日 12時55分から17時17分



携帯会社の充電サービス,非常に助かりました.



日本赤十字社山梨県支部 災害援助物資輸送車(左),自衛隊の多数の車が応援に(右) 迅速な応援だと思いました.ここは県庁周辺の写真.



県庁に人が避難(左). 県庁内に張り出された交通のお知らせ(右).



被災時も営業して助かりました(左), 古い建物の柱の崩落(右).



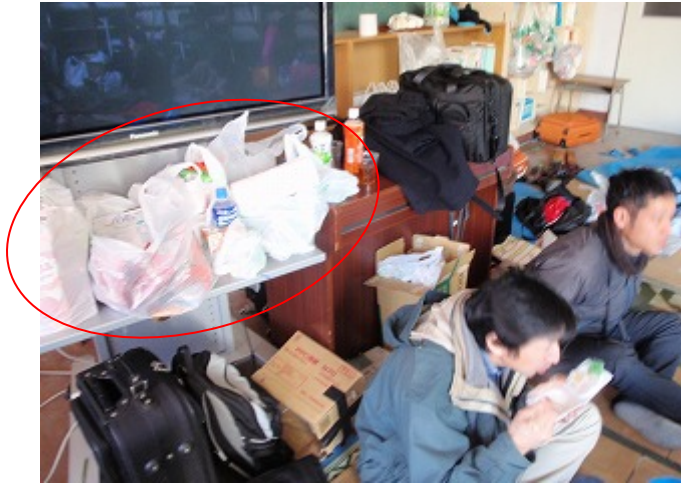
神社の写真右側の狛犬が、左を向いていたのが、180度回転し右を向いていた。
神社は西公園内の桜岡大神宮 (提供:千葉大学の吉田睦教授)



神社の灯籠倒壊 (提供:千葉大学の吉田睦教授)



避難所の状況



購入した食料(左), 簡易トイレの設置(右)
 左の写真に写っている食料は18人分



避難所の状況 (3月12日17時12分)



避難所の状況（3月12日17時12分）



夕方の食料の配布はビスケット，ありがたい。

●2日目:被災地からの移動:3月12日 17時35分から22時35分



バスが運行しているとの情報で、急きょ仙台駅へ移動



あれだけの地震でも倒壊しなかった高層の建物が多数あることに驚いた(左)
仙台駅は閉鎖(右)



仙台駅の前歩道がずれている。



バス停に3時間待って、幸いにしてバスに乗車できた（3月12日20時59分）。
しかし、まだ、後ろには数百人の規模でバスを待っていたので、
相当寒い中、バス停で夜を明かした人もいるかもしれない。
バスは補助席を使い定員まで乗車（右）。



3月12日22時25分に山形のバス停に到着（左）、山形での宿泊旅館は「仙台屋」でした（右）
「仙台屋」の方には、急きょお風呂を沸かして頂き、朝はコーヒーを入れて頂き、
温かい心遣いありがとうございました。

●3日目:被災地を離れて:3月13日 7時22分から14時41分



布団に寝ることができました(左), JRの終日運休のお知らせを山形駅にて確認(右)



山形駅にて, 緊急避難所の案内, JR日本管内の全体の運転状況の地図, 詳細なJRの運転状況の案内があり, 非常に助かりました.



バスの運行の案内がありました(左). ロッカーはすべて使用不可(右).
ロッカーの管理人と思われる人が, バールを持って,
「ロッカー開かない人いますか?」と声かけをしていました.



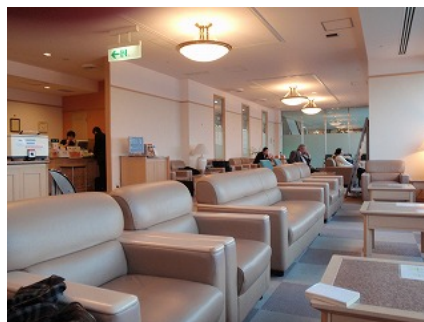
山形駅からバスで鶴岡駅、鶴岡駅からJRで新潟駅へ移動しました。
鶴岡駅では沢山の方がおり、車内は満員で12時40分頃から14時40分頃まで立っていました。



鶴岡駅から新潟駅へ到着し、足早に歩いていました。心なしか少し安心している表情でした。

新潟駅に到着後、新潟空港行きのバスに乗車しました。

●3日目:被災地を離れて:3月13日 17時23分



新潟空港では人だかりは出来ておらず、落ち着いた雰囲気でした。
この後、新潟空港から新千歳空港まで移動しました。

沢山の方々のご支援によって、帰宅することができました。心より感謝申し上げます。